

48th

令和3年度12月号 [12月15日(発行)]

校訓 自主・協同・創造



岸川中だより

川口市立岸川中学校
川口市安行領根岸374番地の1
TEL268-4506 FAX268-4761
特別支援学級 TEL268-7110
さわやか相談室TEL268-4510
<https://kishikawa.official.jp>

年の瀬に想う

校長 松田 隆幸

(バベンベベン) (たっぷり!) 頃は 元禄十四年ん〜♪ (名調子!) 春 三月の十四日 ところは 殿中 松の廊下あ〜(日本一!)……。おなじみ忠臣蔵のくだりですが、この時期になると私の好きな国本武春さんの浪曲を聴いています。クニモト?そもそも、浪曲自体、なじみが薄いので、「誰?」ってな具合でしょうが、NHKの「にほんごであそぼ」に「うなりやべベン」として出演していた方と言えはわかるかもしれません。映画などでは何度か、忠臣蔵に触れる機会があったものの、なかなか気持ちの奥深くにまで届いてこなかったものですが、飛行機の中で、国本さんの忠臣蔵、田村邸の別れのくだりを聴いたとたんには涙があふれ、すぐにCDを買いました。以来 この時期の定番としています。

不思議なもので、映像があるときよりも、なぜか心に響く、三味線と唸り声。まあ概ね、忠臣蔵のくだりを知っていたから、頭の中で、音声からの「画像(え)」を描くことができたのであろうと思います。しかしこれだけではない。国本さんの忠臣蔵は、前半の殿中松の廊下はロック調で、田村邸の別れはバラード調で、聴かせる構成です。三味線の技術も最高で、私は、体を揺らしながら聴き入り、最後には涙する……。といった具合です。

伝統芸能の浪曲も、変わらないものと、変わるものをうまくバランスさせ、生き残りを図っているのでしょう。新しい空気の取り込みは、少し違いますが、神田伯山さんも挑戦し、講談で人気をものにしています。これからは、生き残りの時代かもしれません。国内の学校現場は2030年問題の「人口減」の大問題が始まりつつあります。生徒の数が少ない=先生の数も少ない=あちらこちらで、人手不足による不具合が……。といった具合です。何も、ウチ(岸川)だけの問題ではなく、日本全体の問題となっています。

ちなみにこの時期の定番をあと二つ。一つは、すてきなホリデー+年明けの新春夫婦放談(何のことか?わかる人にはよくわかると思います)。残りは、年の瀬定番の「芝浜」。浪曲ではありませんが、来年は生き残りをかけて、変えるところは思い切って変えなくてはならない!と国本さんを聴きながら思った次第です。さて来年は新しく、どこから、何を变えていこうか?すでに岸川中学校では、次年度に向けての動きが始まっています。この計画が軌道に乗れば、学力向上、体力向上等……いろいろなところで、今以上の成果を上げることとなります。正月は、そんなことを思いながら、少しだけのんびりして、生き残り計画を考えようと思っています。そして、元日はのんびりお屠蘇をいただきながら落語でも……。

ん?よしておこう、せっかくの改善計画が、「夢になるといけねー」

令和5年岸川中学校は創立50周年
2023 Kishikawa.J.H.S 50th ANNIVERSARY